

CGプロダクション制作環境 一斉調査2026

DAIV | mouse

Powered by マウスコンピューター

PCパーツの価格高騰や生成AIツールの進化により、CG制作に求められるハードウェアの仕様は大きく変化し、その選定は難しくなっている。「CG年鑑」掲載企業を中心に実施した「制作環境一斉調査2026」では、151社から回答を得た。本稿では、その調査結果を基に、業界別・使用ツール別の傾向を分析。マウスコンピューターとともに、CG制作に最適なPC構成を探っていく。

TEXT_CGWORLD編集部

調査対象

「CG年鑑 2026」掲載企業を中心とした企業にメールにて案内

調査期間

2026年7月10日(金)～
7月16日(木)

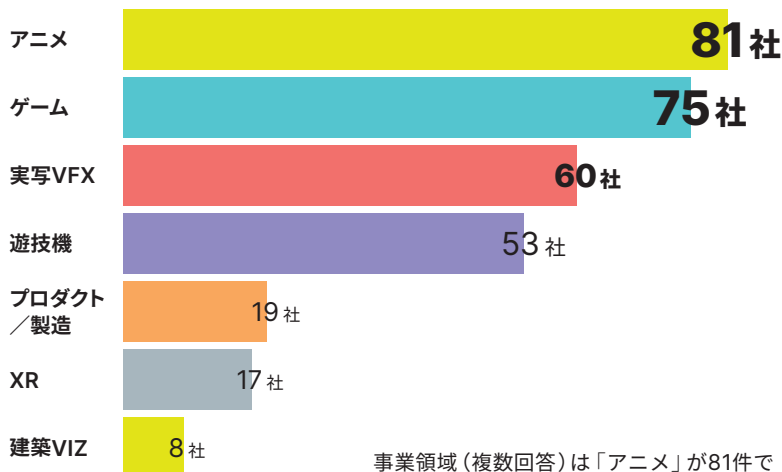
調査方法

メールアンケート

回答社数

151社

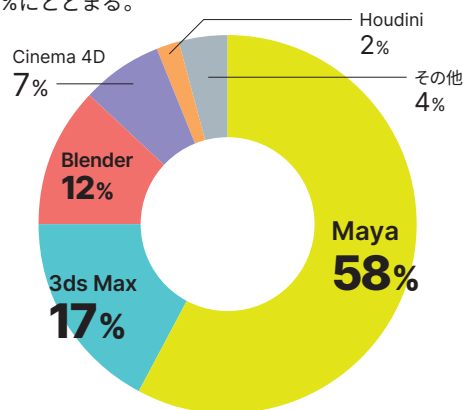
業種



事業領域(複数回答)は「アニメ」が81件で最多、僅差で「ゲーム」が75件、「実写VFX」が60件、「遊技機」が53件と続いた。

メインツール

回答はMayaが87件(58%)を占めて最多。次いで3ds Max(17%)、Blender(12%)、Cinema 4D(7%)と続き、Houdiniは3件・2%にとどまる。



※メインツールを択一で答える質問で、使用ツール全般についての質問とは異なる。参考までにCG年鑑2026掲載企業全351社の使用ツール全般については下記。Maya: 269社、Blender: 222社、3ds Max: 206社、Houdini: 145社、Cinema 4D: 74社

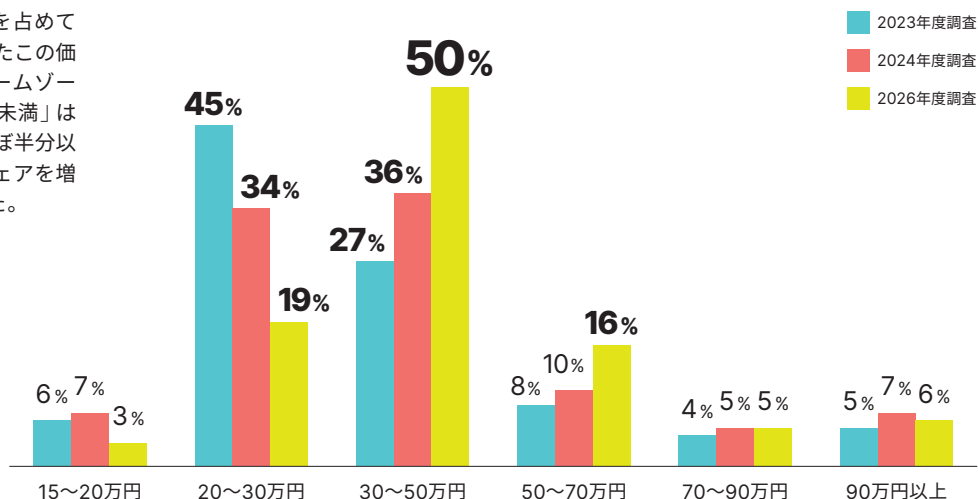
Q1 PCの価格帯にはどんな変化が見られる?

「30万円以上50万円未満」が50%と半数近くを占めて最多。2023年度は27%、2024年度は36%だったこの価格帯が、2026年度は50%まで拡大し、ボリュームゾーンとして定着した。一方、「20万円以上30万円未満」は45%→34%→19%と一貫して縮小し、3年でほぼ半分以下に。「50万円以上70万円未満」も16%までシェアを増やし、価格帯の裾野全体が上方向にスライドした。



マウスコンピューターのコメント

メモリ・SSDといった半導体の価格上昇に大きく影響を受けています。制作環境向けの製品は比較的大容量の構成が必要ことから、特に価格への影響が顕著に出ている状況です。



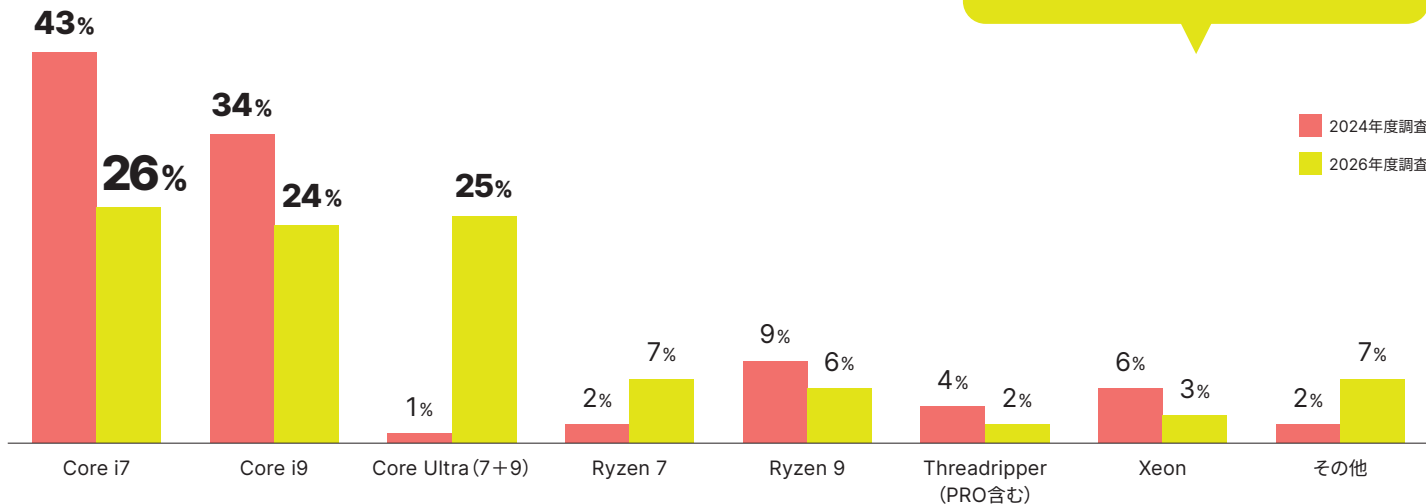
Q2 CPUの選択傾向は？

「Core i7」が26%で最多、僅差で「Core i9」が24%。「Core Ultra 7」(15%)と「Core Ultra 9」(10%)を合わせると25%に達し、従来型のCore i7・i9合計50%に迫る規模となった。2023年度から2024年度にかけては、Core iシリーズがほぼ横ばいの方、AMD特にRyzenシリーズが明確に伸長していた。今回の2026年度調査では、コストパフォーマンスに優れたRyzen 7が明確にシェアを伸ばしているが、2024年度時点ではCore Ultra 9が「その他」に埋もれるほど僅少(1%未満)だったCore Ultraシリーズが、7・9合計で25%まで急拡大した。NPU搭載の新世代Core Ultraへの期待感をのぞかせた。



マウスコンピューターのコメント

Core Ultraシリーズに搭載されるようなNPU搭載が高性能PCの新規導入時の標準になりつつあります。制作ソフト側でもNPU対応機能が徐々に導入されており、GPUによるレンダリング処理と並行してNPUでAI補助処理を実行することで、負荷分散や生産性向上に寄与していると考えます。



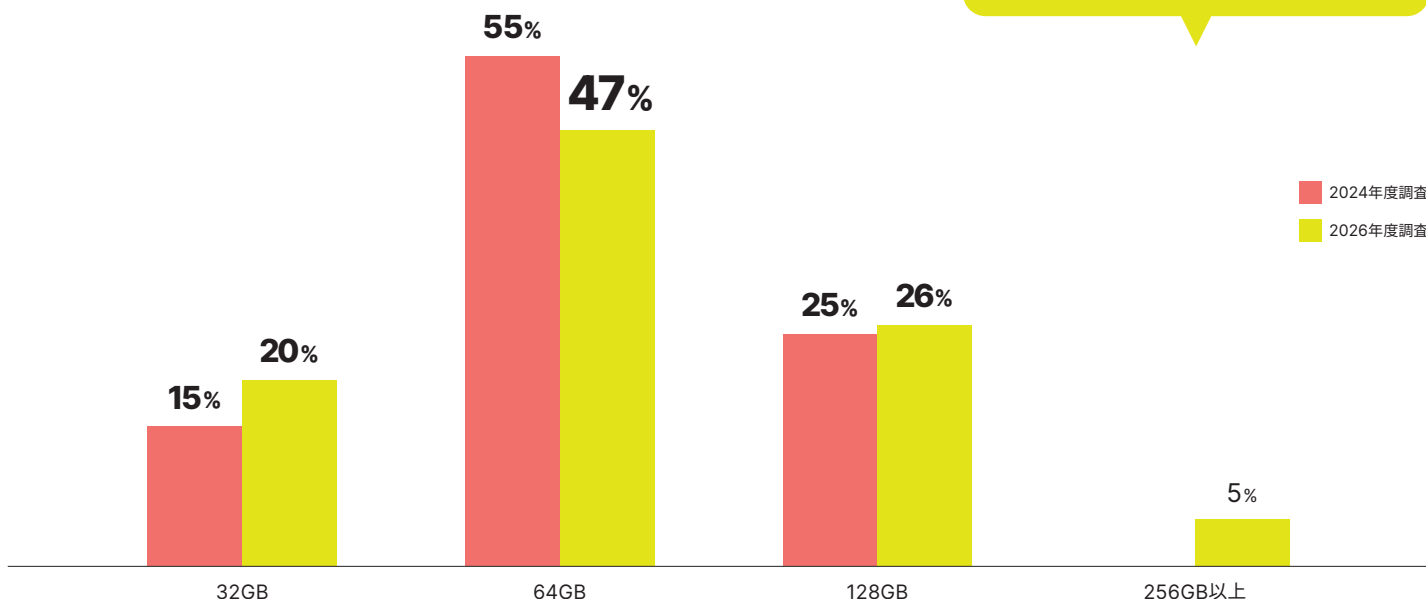
Q3 メモリの選択傾向は？

「64GB」が47%で最多。2024年度調査の55%からはシェアを落とし、「32GB」(20%)「128GB」(26%)の両端が増える結果となった。過去傾向でいえば、年々メモリサイズは大きくなる傾向にあったが、メモリ価格の高騰が原因して、32GBにとどまる層が増えた。一方で、128GB、256GBとメモリを積み増す層も一定層増えた。この層を個別に分析すると、業種別では実写VFX回答者60件のうち29件(48%)が128GB以上を選択し、アニメ(28%)やゲーム(20%)を大きく上回った。選定理由として、「レンダリング」(62%、全体49%)や「エフェクト・シミュレーション」(51%、全体40%)を挙げるユーザーが全体傾向よりも多く、負荷の高い工程を担うユーザーほど大容量メモリを選ぶ傾向が出ている。



マウスコンピューターのコメント

32GBはPCコストに占めるメモリ比重の大きさから、導入コストを抑えて選ぶケースが増加。当初は32GBで導入し将来増設で対応する例もあります。一方、複数アプリ運用やデータ増加への対応から、速度と安定性を重視して128GBを選ぶ動きも強まっています。



Q4 グラフィックスボード (GPU) の選択傾向は？

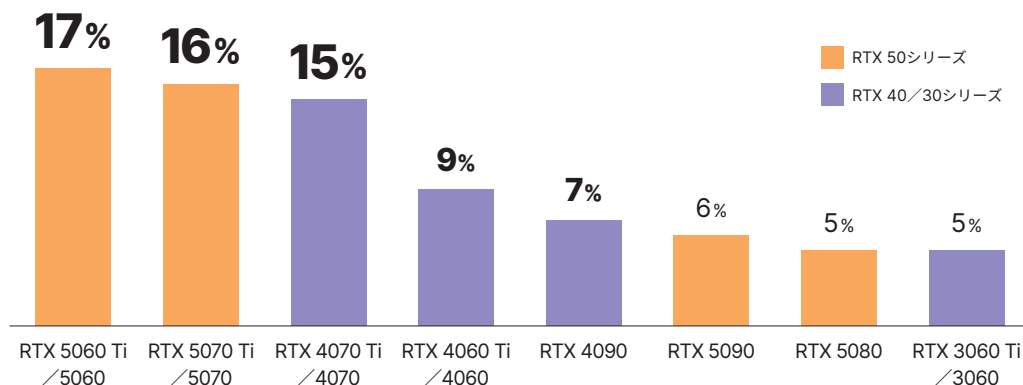
「RTX 5060 Ti／5060」が17%で最多、「RTX 5070 Ti／5070」(16%)、「RTX 4070 Ti／4070」(15%)が僅差で続く。RTX 40番台からRTX 50番台への世代交代が進行中で、最上位のRTX 4090／5090も合わせて13%と、ハイエンド層は堅調だ。

GPUを性能帯で「ハイエンド」(RTX 4090／5090／5080／4080等、30%)「ミドル」(RTX 4070Ti／4070／5070Ti／5070等、36%)「エントリー」(RTX 4060Ti／4060／5060Ti／5060等、34%)の3層に分けて集計すると、明確な相関が見える。

ゲームエンジン利用者はハイエンド比率36%に対し非利用者は15%と2倍以上の差があり、リアルタイムレンダリングの有無がGPU投資額を

左右する。業種別では建築(75%)・プロダクト／製造(63%)・実写VFX(43%)が上位、アニメ(23%)・ゲーム(20%)は控えめで、ビジュアルズの精度が求められる領域ほど高価格帯GPUへ投資する傾向が明確だ。ツール別ではCinema 4D(60%)、Maya(25%)に対しBlender(22%)が最も低い結果となった。

AI活用率もGPU階層と強く連動する。ハイエンドGPU使用者のAI活用率は93%に達し、ミドル(74%)・エントリー(59%)と段階的に低下。「AIを活用していない」と回答した13件の中にハイエンドGPU使用者は一件もなく、AI活用の広がりが高性能GPUへの投資と表裏一体であることがうかがえる。



マウスコンピューターのコメント

RTX50番台は純粋な処理性能よりAI処理性能の拡張が大きく、AIを前提としたワークフロー導入の需要が牽引しています。AI活用でVRAM容量が要求仕様として重視されるようになったことも、上位クラスへの移行を加速していると想定します。

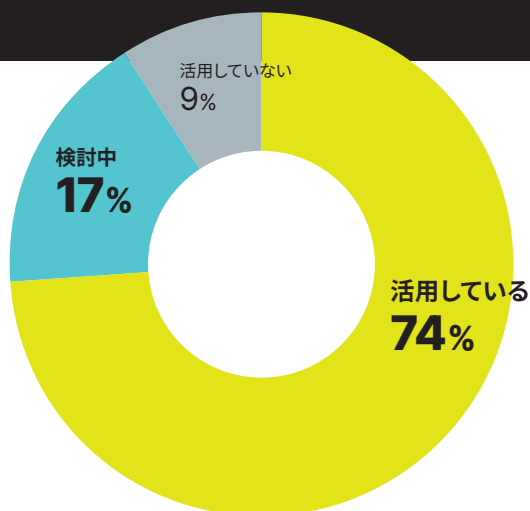
Q5 AI活用の状況は？

「はい」が74%、「検討中」の17%を合わせると9割超がAI活用に前向き。ツールはChatGPT・Gemini・Claudeが上位、用途は「補助」、「自動化」、「生成」の順に多い。



マウスコンピューターのコメント

生成・アップスケールなどのAI処理をローカル実行する前提では、少なくともVRAM16GB以上、可能であればGeForce RTX 5090が搭載する32GB以上のグラフィックスを選べば、パフォーマンスも期待できます。



制作環境のトレンドまとめ

- ▶ 価格帯は「30～50万円」がメイン
- ▶ CPUはCore i7／i9からCore Ultraシリーズへの世代交代が進行
- ▶ GPUはRTX 40番台からRTX 50番台への移行期
- ▶ メモリは64GB一強から32GB・128GBへの二極化

2026
年度版

マウスコンピューター ツール・業種別 おすすめPCは？

CPU、GPU、メモリの投資はCGツールの種類そのものよりも「何をするか」に強く左右される。同じMayaユーザーでも、モデリングやアニメーションが中心か、シミュレーションやリアルタイムエンジンとの連携を伴うかで、最適な構成は大きく変わる。ここでは回答データをもとに、ツール軸・ジャンル軸それぞれで「こんな方にはこれがおすすめ」という視点から、マウスコンピューターから提案をしてもらった。文中のPCの具体的な構成は次ページを参照してもらいたい。



ツール別・制作物別 おすすめ

Mayaユーザー向け

CGWORLD

Mayaユーザーは87件と全体の58%を占め、回答者の中でも中心的な存在です。モデリングやアニメーションといった比較的ライトな使い方をする層が最も厚いのですが、こうした層にはどのようなPCがおすすめでしょうか。

ボリュームゾーンの価格帯を超えてしまうのですが、Core i7 14700F+RTX 5060Ti/16GB+メモリ64GBを搭載した**DAIV KM-I7G6T**をおすすめします。価格とスペックのバランスに優れた、標準的な構成です。



CGWORLD

一方で、シミュレーションやエフェクト、大規模シーンを扱うアーティストや、Unreal Engine・Unityといったリアルタイムエンジンとの連携が多い層もいらっしゃいます。ゲームエンジン利用者はハイエンドGPU比率が36%に達し、非利用者(15%)の2倍以上という結果も出ていますが、こうした層にはいかがでしょうか。

そうした層には、Core Ultra 7 270K Plus+RTX 5080/16GB+メモリ64GBを搭載した**DAIV FX-I7G80**をおすすめします。フルタワーならではの拡張性の高さ、Thunderbolt 4による周辺機器との高速な接続性が、この層に合っていると思います。



Blender/3ds Max/Cinema 4Dユーザー向け

CGWORLD

Blender・3ds Max・Cinema 4Dといったツールをお使いの、小規模プロダクションのゼネラリストの方々にはいかがでしょうか。

DAIVシリーズでは、高性能パーツの搭載や内部増設、インターフェースの拡張性に優れたフルタワーと、コンパクトでコストパフォーマンスに優れたミニタワーをご用意しています。CPUとGPUのどちらを重視するか、またCPUのシングルコア性能とマルチコア性能のどちらを優先するかなど、ワークフローにおける優先度を伺いご提案しています。



CGWORLD

Cinema 4DユーザーはハイエンドGPU比率が60%と全ツール中で最も高いという結果が出ています。RedshiftやOctaneといったGPUレンダラーを多用する層向けには、何かおすすめはありますか。

GPU性能がそのまま制作効率に直結しますので、Mayaのハイエンド層と同じく、強力なGPUレンダリング性能と大容量のVRAMを備え、バランスの取れたCPUを組み合わせた**DAIV FX-I7G80**のような拡張性の高いフルタワー構成をおすすめしています。



Houdini など 重量作業を行うユーザー向け

CGWORLD

Houdiniユーザーは、70万円以上・メモリ128GB中心という、突出したハイスเปック構成を選ばれている方が多いようです。シミュレーションやFXなど負荷の高い処理を担う、「ヘビー級作業家」の方にはどのようなPCがおすすめでしょうか。

Ryzen Threadripper PRO 9995WX+RTX PRO 6000を搭載したワークステーション、**DAIV FW-P9N60**をおすすめしています。





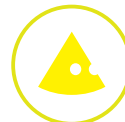
業界ジャンル別オススメ

実写VFX業界向け

CGWORLD

実写VFX業界の方々は、ジャンルの中でも最もハイエンド志向が強く、「90万円以上」が13%、ワークステーション級CPUが8%と他ジャンルを上回っています。

コア数が直接効いてくる分野ですので、CPUはThreadripper PROを、GPUは大容量のジオメトリ・テクスチャのロードを見据えてVRAM96GB搭載のRTX PRO 6000をおすすめします。メモリもスワップを避けるため256GBを推奨しており、**DAIV FW-P9N60のカスタマイズ**でご対応いただけます。



ゲーム業界向け

CGWORLD

ゲーム業界は全体としてはミドル～エントリーのGPUが主流で、ハイエンド比率は20%にとどまります。同一構成をまとめた台数導入されるケースが多いようですが。

そうした場合は、拡張性より設置のしやすさを重視して、ミニタワータイプをおすすめしています。ただし、リアルタイムエンジンでのライティングやエフェクト、テクニカルアートを担当される方は別です。ゲームエンジン利用者全体のハイエンドGPU比率は36%に達していますので、そうした少数精鋭のポジションの方には、Mayaのハイエンド層と同じく**DAIV FX-I7G80クラス**をおすすめします。



アニメ業界向け

CGWORLD

アニメ業界は価格帯・メモリともに全体の標準値に近く、多品種の案件を抱える点はゲームとも共通しています。

価格面のメリットもありますので、ミニタワーによる共通仕様での導入をおすすめしています。

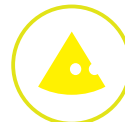


建築・プロダクト／製造向け

CGWORLD

建築ビジュアライゼーション・プロダクト／製造の分野は、ハイエンドGPU比率が65%と全業種で最も高く、価格帯も「50万円以上」が合計70%を占めています。

精度が求められるビジュアライゼーション用途ですので、**DAIV FX-I7G80**を軸にご提案しています。案件によっては、**DAIV FW-P9N60**もご検討いただける選択肢です。





DAIV KM-I7G6T (標準開発モデル／ミニタワー)



コンパクトな設置スペースとコストパフォーマンスが魅力

CPU	Core i7 14700F
GPU	GeForce RTX 5060 Ti／16GB
メモリ	64GB(カスタマイズ)
BTO価格	612,700円(税込)

※2026年7月、取材実施時点での価格を掲載

CPUにCore i7 14700F、GPUにGeForce RTX 5060Ti/16GBを搭載し、メモリを64GBにカスタマイズしたミニタワー型のPCです。省スペースとパフォーマンスを両立しています。



DAIV FX-I7G80 (ハイエンドモデル／フルタワー)



ハイエンド作業を行うスペシャリストまたはゼネラリスト向け

CPU	Core Ultra 7 270K Plus
GPU	GeForce RTX 5080／16GB
メモリ	64GB(カスタマイズ)
BTO価格	827,700円(税込)

※2026年7月、取材実施時点での価格を掲載

CPUにCore Ultra 7 270K Plus、GPUにGeForce RTX5080/16GBを搭載し、メモリを64GBにカスタマイズしたフルタワー型のDAIV FX-I7G80シリーズであれば、フルタワーケースの拡張性やThunderbolt4による周辺機器との高速な接続性などのアドバンテージがあります。



DAIV FW-P9N60 (ヘビー級／ワークステーション)



シミュレーションもレンダリングも高速なウルトラハイエンドモデル

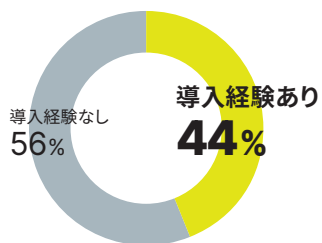
CPU	Ryzen Threadripper PRO 9995WX
GPU	RTX PRO 6000 Blackwell Max-Q Workstation Edition／GDDR7 96GB
メモリ	標準128GB(256GBまでカスタマイズ可)

CPUはThreadripper PROを選択、GPUは大容量のジオメトリやテクスチャのロードを想定し、VRAM96GB搭載のRTX PRO 6000を搭載したハイエンド機。またメモリはスワップを発生させないための容量として256GBを構成しています。

マウスコンピューター 2026年クリエイターPCへの取り組み

ここまでの調査結果を、実際に多くのCGプロダクションが選んでいるマウスコンピューターはどう見ているのか。「コストパフォーマンスの高さ」や「納期」への評価、そして部材高騰時代への対応について、率直な声を聞いた。

この3年以内の導入経験



コストパフォーマンス	70%
パフォーマンスの高い 機材構成	42%
納期	35%
安定性・故障の少なさ	29%
サポートの充実	20%

CGW:「コストパフォーマンスの高さ」や「納期」といった評価が寄せられました。今回の結果を踏まえ、全般的な評価をどう受け止めていますか？

マウスコンピューター: 昨今の半導体価格高騰や供給逼迫は非常に厳しい状況ですが、皆さまからいただいた評価に、引き続きお応えできるように取り組みを続けてまいります。一方で、安定性・故障の少なさやサポートの充実といった点については、弊社として課題であることと同時に、伸びしろの部分でもあると考えて、強化していきたいと考えています。

CGW: 一方で、自由回答では部材価格の高騰や品薄を懸念する声も複数寄せられました。マウスコンピューターとしてはどのように対応していますか？

マウスコンピューター: 部材価格の上昇や供給不安定化により、価格面や納期面でも一定の影響は受けています。

在庫・受注状況を平時から定期的に確認し、供給が逼迫した際には確認頻度を日次に取り替えるなど、状況把握を徹底しています。飯山工場ではライン生産ではなくセル方式を採用し、受注傾向に応じて工程を柔軟に調整することで、注文から出荷までを無駄なく進めています。

価格維持に向けても、複数の調達パートナーと四半期ごとにQBR (Quarterly Business Review) を実施し、両社で供給

状況や課題の協議を通じて、良好な関係性を構築し、価格への影響を抑える対応につなげています。弊社努力だけではカバーできない高騰分は価格転嫁も発生し得ますが、カスタマイズとモデル選択によるスペックとコストの最適化で対応していきたいと考えています。

CGW: サービス・品質向上に向けた取り組みについて教えてください。

マウスコンピューター: サポート面では、24時間365日サポートを基本に、オンサイト保守などの延長保証や安心パックなどのサービスを展開しています。直近では法人様向けの専用窓口の開設や、技術お問い合わせに対応する専門スタッフの配置など、体制強化を行いました。品質面では、開発・品質管理・サービスの各部署が連携して市場品質情報を共有し、迅速・的確な問題解決と対策に取り組んでいます。最新の品質情報を開発段階から確認することで、製品の品質・信頼性の継続的な向上に努めています。製品面でも、Ryzenは法人からの引き合いが増えており全ブランドでラインアップを強化中です。お客様のニーズに合わせた構成がリーズナブルに選択できる柔軟性を引き続き提供しつつ、より高いパフォーマンスのセグメントや、ローカルLLMを活用するAI向け製品など新カテゴリも企画検討していきたいと考えています。

